

令和5年度 第1回 松戸市子ども・子育て会議 議事録

1. 日 時	令和5年7月26日(水) 18:30~20:10
2. 場 所	Zoomによるオンライン開催
3. 出席者	<p><委員> (50音順) 17名 明田委員、安達委員、阿部委員、石垣委員、石田委員、荻野委員、神谷委員、久川委員、小松委員、坂委員、坂野委員、鈴木委員、寺田委員、久居委員、百田委員、松本委員、山田委員</p> <p><松戸市> 子ども部長、子ども政策課長、子どもの未来応援担当室長、子育て支援課長、児童給付担当室長、子どもわかもの課長、幼児教育課長、こども家庭センター所長、母子保健担当室長、保育課長、指導監、入所入園担当室長、保育運営担当室長、事務局(子ども政策課)ほか</p>
4. 傍聴者	2名
5. 次 第	<p>議題</p> <p>第3期松戸市子ども総合計画の策定について 報告</p> <p>(1) 幼稚園等における給食費等の支援について (2) こども政策対話の実施について</p>
6. 資 料	<p>[資料1-1] 第3期松戸市子ども総合計画の策定について [資料1-2] 「まつど“こどもまんなか”アイデア・イラストコンテスト」案内チラシ [資料2] 「すべての第2子・第3子以降を対象に給食費等支援金を支給します」案内チラシ [資料3] 広報まつど6月15日号 1面</p>

1 開会及び会議の成立について

(事務局)

委員の半数以上が出席(21名中17名出席)。

「松戸市子ども・子育て会議条例」第6条第2項の規定により、会議の成立を報告。

2 子ども部長挨拶

3 傍聴者の受入れ及び議事録の作成・公開について

(事務局)

「松戸市情報公開条例第32条」の規定により、公開を原則として会議を開催し、傍聴者の受入れを許可したい。本日の傍聴の申し出は2名。別室に設けたタブレット端末により会議を傍聴する。

また、当会議については議事録を作成の上、公開したい。議事録作成のため、Zoomによる録音・録画についても許可願いたい。

(坂野会長)

特段異議等ないので、公開を了承する。

4 議題

第3期松戸市子ども総合計画の策定について

資料1-1、1-2を用いて、担当課より説明を行った。

(久川委員)

保護者や子どもだけでなく、教員や保育士へのアンケート等は予定していないのか。

(子ども政策課長)

教員や保育士への大規模なアンケートは予定していないが、現場で働いている方の意見は非常に重要だと認識している。子どもの貧困対策計画(松戸市子どもの未来応援プラン)を策定したときも現場で働いている方にヒアリングをしており、そうした手法で課題やニーズを探れるように検討していきたい。

(寺田委員)

色々な制度を松戸市が作ってくださり、子育て環境が充実してきたという実感がある。その一方で、本当によりよい子どもの育ちにつながるのかと思うところもいくつか出てきている。

アンケートは「量の見込み」のために実施するということもあると思うが、「質の充実」も忘れずに質問項目に入れていただきたい。

私自身、色々な制度ができる中で、新しい情報を漏らさずに保護者や市民の方々に届けられているのかという不安を持っている。アンケートの結果がまとまったら、ぜひ周知も格差がないようお願いしたい。

(子ども政策課長)

ご指摘の通り、質について皆さんがどう思っているか、またどこに課題があるのかが、非常に重要だと思っている。過去のアンケート調査では、質についての設問も入れているので、今後も大事にしていきたいと思っている。

また、アンケートでいただいたご意見をフィードバックすることは、非常に大事だと思っている。周知についてはまだまだ足りないところがあるので、色々なツールを活用しな

がら、ご協力いただいた方、子育て世代の方、市民の方にフィードバックしていきたいと思っています。

(神谷委員)

アンケートが突っ込んだ内容になっていて、いいなと思う。

寺田委員から質も大事だというお話があったが、私は量も大事だと思っている。国の「こども未来戦略方針」には、「新・放課後子ども総合プランの着実な実施」がうたわれていて、2019年度から2023年度にかけて受け皿の拡大を着実に進めるとある。放課後児童クラブの安定的な運営を図る観点から、常勤職員の配置の改善、あるいは放課後児童クラブの待機児童といった問題についての数量的な調査が、このアンケートには入っていないと思う。質的な問題と量的な問題は、両面から攻めないとだめだと考えている。

また子どもたちの貧困問題については、経済的な貧困だけではなくて、心理的な貧困の問題もある。

従来から申し上げているが、こうしたことに対して中高生のための放課後対策がしっかりなされているのかどうか。量的な問題と質的な問題が十分に対応されていないところがあると思う。このあたりについて、どう考えているのか。

(子ども政策課長)

量の部分については、「第2期松戸市子ども総合計画」の第5章に、放課後児童クラブを含め、教育・保育や地域子ども・子育て支援事業についての5年間の「量の見込み」を立てるようになっている。「量の見込み」に対して、供給を計画的にやっていくようになっている。ただ、まちの開発状況等によって需要と供給のバランスがうまくいかないこともあり、今後は街づくり部とも連携しながら、量については適切に見込んでいきたい。

また、第5章について、数字の羅列で分かりにくいという意見もあったので、第3期の計画では子どもが見ても分かるように解説を入れる等、色々工夫していきたいと考えている。

中高生のための量と質は図られているかというご指摘だが、量的な部分については「第2期子ども総合計画」の重点事業で進捗管理をしているが、青少年プラザや児童館など、最終的な年度目標に追いついていない事業もある。質的な部分については、児童館や青少年プラザでも子どもの意見を聞きながら、環境の整備等を行っている。「こども基本法」で子どもの意見聴取というところも出てきており、これからは、子どもの意見を聞きながら、子どもたちが何を望んでいるかを推し量りながら、質の向上を行っていききたいと考えている。

(神谷委員)

ぜひ具体的に話を詰めて、子どもたちが真ん中にいられるような施策を進めていただきたい。

5 報告

(1) 幼稚園等における給食費等の支援について

資料2を用いて、担当課より説明を行った。

(寺田委員)

さっそく保護者にお話をしたところ、喜びとお礼の声が幼稚園に寄せられた。「第2期松戸市子ども総合計画」の中では、幼稚園は預かり保育以外にあまり登場してこなかったので、非常にありがたいと思っている。

(2) こども政策対話の実施について

資料3を用いて、担当課より説明を行った。

○「こども政策対話」の動画を視聴。

(坂野会長)

松戸市の子ども政策が日本全国で認められたということで、拍手を送りたいと思っている。皆さまのご苦勞、そして皆さまが真剣に考えた結果を松戸市が実現してくださったこと、子ども・子育て会議の会長としてお礼を申し上げたいと思う。

(山田委員)

首相にこちらからも現状をお伝えすることもでき、松戸市のすばらしい施策が他市の参考になればいいと感じた。評価を受けたことは大変喜ばしいことだと思った。ただ、求められていることがレベルアップしており、今回「こども基本法」にある、子どもの声を聞いていくことを実現していくにはまだまだハードルも高い。こういった施策を、特に児童期子どもたちに対してしていくのか、一緒に真剣に考えていきたいと思った。

(子どもの未来応援担当室長)

松戸市としても現場の声や子どもたちの声をきちんと受け止めて、引き続き政策に反映していくよう努めていきたいと思っているので、今後ともよろしく願いたい。

(明田委員)

ニュースで拝見し、松戸市のいいところがたくさん取り上げられており、嬉しく思った。一過性ではなく、今後も続けていただきたい。小さいお子さんを持つお母さんのインタビューを見て、自分の子どもが小さかった頃の鬱々とした気持ちを思い出し、泣きそうになった。今も毎日のように子どもが巻き込まれる事件・事故が多いので、松戸市ではもうこんなことが起きないことを信じて、これからもみんなで頑張っていけたらと思う。

6 その他

(坂野会長)

今回の会議が第5期最後になるため、会を通しての感想あるいは、先ほどのご意見等を含めて、委員の皆さまから最後のお言葉を賜りたいと思う。

(明田委員)

2年間、ありがとうございました。この間に、息子が保育園から小学生になったり、コロナも落ち着き、私もテレワークから出社になったりした。委員になったことで、色々なことをたくさん学べたので、委員が終わったから知らないではなく、これからも松戸市、千葉県、日本、みんなのことを気に留めていけたらと思っている。

(安達委員)

普通の生活をしているだけでは全く分からないことがたくさんあり、この会に出席したことで行政がどういうことを考えているのか、具体的に知ることができて、非常に勉強になり、ありがたかった。

先ほどの動画のように、松戸市の取組が評価されていることは、行政の皆さんが日頃ご苦労されながら子育てのことを考えていてくださるからだと思った。これからも色々なことが起きるかもしれないが、ぜひ現場にも足を運んでヒアリングいただけると、もっとよくなると思っている。

(石垣委員)

このような会議に参加し、色々な意見を吸い上げていただけて、子ども・子育てに全員で関わっていけるのだと実感している。先日、松戸子育てフェスティバルが3年ぶりにあり、盛大に行えたのは、皆の力があつたからだと感じられて嬉しかった。

アンケートの男性の産休の取り方について、妻からの目線ではどの程度の満足度があるのかを調査していただけたらありがたと思う。質を考えていただくアンケートにできたらと思う。

(子ども政策課長)

今後、育児休業制度を考えていく上で大事な視点なので、設問は検討したい。

(石田委員)

2年間ありがとうございました。コロナによって会議が縮小されることもあったが、ずっとこの子ども・子育て会議に参加させていただいた。色々な施策が松戸市にはあり、子育てコーディネーターという立場ではあるが、なかなか追いつけず、利用者さんに説明するのが大変だと思っている。

ただ、これだけたくさんあるということは本当にすごいことで、私も全国の地域子育て拠点を見ることは多いが、松戸市はすばらしいと話すことも多い。しかし、利用者側になかなか周知されていないとも感じる。私も保護者に制度を説明するが、早く知りたかった、知っているがなかなか使いづらいといったご意見をいただいている。

このところ、小規模保育施設からの卒園時、他市に転居する方が多く、それがなぜなのかと気になっている。せっかくいいものが作られているのに、子どもたちが小学生・中学生・高校性になったときに松戸市にいないというのは寂しい。そのあたりは、まちづくりも関わっていることだと思う。松戸市が子ども・子育てにやさしいまちであることを、松戸市の全体で考えていただけるとありがたい。

(荻野委員)

障がい者団体では、発信は得意ではないが昨年ホームページをつくったり、Facebookで近況をアップしたり、障がい者団体の広報紙を発行したりしているので、ぜひご覧いただけたらと思う。私は放課後等デイサービスで働いており、同社ではもう一つ児童発達支援の事業をしており、医療的ケア児も完全送迎にて支援をしている。お忙しいと思うが、興味を持っていただけたらと思う。見学も随時受け付けている。

完全送迎のため保護者の横のつながりが難しいので、私が中心となって保護者会活動をしている。皆さんの意見を色々聞きながら活動していきたい。

最近、外国籍の友人ができたのだが、まだ日本に来て間もないご家庭の人の学校の面談時に、その友人が通訳をしたと聞いた。面談は個人情報も多くあるので、そのあたりの配慮もいただけたらと思う。

(神谷委員)

昨年からキャンピングカーに遊び道具を積み込んで、遊びの出前をする「あそびの駄菓子屋くまさん」という活動を始めた。もしご用命があれば、学生と共に出かけようというシステムが出来上がっている。またそんなところでお会いできたらと思う。

(久川委員)

参加させていただき、ありがとうございました。2期務めたが、子ども・子育てと言っても、色々なケースがあることが分かり、把握も難しく、一つひとつに対応していくことがすごく難しいことなのだと実感した。

今後さらにニーズも多様化していくと思うが、公募市民の間口をもう少し広げてもいいのではないかと感じた。こういう会議でどんどん発言をしていける人ばかりではないだろうし、夜の時間が取れる人ばかりではないと思う。例えば、WEB アンケートや紙面での回答ならできるという方もいると思うので、もっと多様な方々の意見を吸い上げることができるのではないかと考えた。

(小松委員)

2年間、坂野会長のもとで、皆さんすばらしく熱心で活発な意見を出していただいたことで、このようにすばらしい会ができたと思う。松戸歯科医師会では未就学児を対象に、幼稚園・保育所等で、虫歯予防のためのフッ化物洗口を行っている。現在、未就学児の施設58か所で、3,000人強の子どもたちが虫歯予防のために毎日フッ素の液体でうが

いをしている。子どもたちが小学校に上がって、これを途絶えさせてはいけないということで、今度は小学校に働きかけをしている。現在2校に行っており、来年からはおそらく5～6校増えると思っている。

また、医療機関の立場からお話すると、今まで中学生まで医療費一律200円だったが、8月1日から高校生相当の年齢の方々にも受給券が配られるとのことで、本当に素晴らしい取組だと思っている。できれば、医療費が0円にできたら一番いいかと思うので、今後の課題としてまた、行政の方々と密に連携をしていきたいと思っている。

(坂委員)

2年間の会議を通して、行政の諸施策や皆様のご意見を伺い、子ども会として大変勉強になった。ありがとうございました。

松戸市子ども会の現状は、全国・県内の状況と同じく3年間ほどのコロナの影響で激減しており、大変厳しい状況となっている。そのため、市民の皆さまに子ども会を認知し、理解してもらう諸活動を展開してきた。

2020年では、在宅でもできる「松戸市平和事業」の支援として、折り鶴の制作を展開し、約19,000羽を献呈できた(2023年時：献呈総数約60,000羽超)。2021年から2022年にかけては、ホームページの充実を図るとともに、市子連LINEでのOpen-Chat開設やTwitterの活用、お問合せメールでの相互連絡を通じて、市子連と各子ども会、子ども会間の情報伝達や情報共有など、SNSを活用した取組みが活性化した。コロナ渦でのスポーツ活動は、開催を工夫し、分散開催・時短開催などの対応で3年間「中止」することなく継続開催ができた。

子ども会活動が活性化し前進する中で、大きな課題は「地域間格差」がある。市内一律の活動内容は困難だが、ある程度の活動を維持することが必要。この活動格差が広がりを見せており、将来的には特定の地域の子ども会が全くなくなる可能性があるため、各地区の状況を勘案しながら、地域(町会・自治会)、学校との連携を通じて、より多くの子どもたちが伸び伸びと活動できる環境を作っていきたいと考えている。

(鈴木委員)

P T Aの代表としては、わがままではあるが、学費や給食費に限らず、中高生の制服、部活費用など、教育にかかる費用全般に関して、行政からの支援を期待している。また、教師の配置不足解消に関しても、松戸市独自の対応をしていただいているかと思うが、より強化していただければと思う。

(寺田委員)

2年間ありがとうございました。最初にこの会に参加したときには、松戸市にこんなに色々な部署があり、色んな立場の方々が出て、子どもについて考えている方がたくさんいると驚いたのを覚えている。幼稚園ではどうしても子どもが育つための支援をまず考えるので、色々意見を言わせていただいた。子育てをしている人の支援ももちろん必要な

ので、両輪をそろえて進んでいけたらいいのかなと思う。

私も幼少期を松戸市で過ごした。子ども時代を思い出すと、いいまちだなと思いながら、誇りを持って過ごしたと言える。今の子どもたちが大きくなったときに、「僕たちも松戸市で育ったのだぞ」と胸を張れるような、そういったまちづくりのお手伝いができたらと考えている。

(久居委員)

2年間ありがとうございました。私共は、保育課の皆さんを通じて色々な子育ての政策を伺う機会がある。その中でいつも印象に残る言葉は、松戸市は先駆的にやっていて、そのあとに県が来て国が来るということ。先に先にということ意識され、私たち現場の声を常に吸い上げていただいて、感謝している。

大きな課題かもしれないが、幼保小の交流会は常にしているが、やはり子どもたちが小学校に上がる際に大きな壁があり、小さな集団から大きな集団に上がるときにとても苦勞するお子さんの話を多く聞く。スタートカリキュラムが進んでいくことを本当に願っている。松戸市全体の取組としてやっていただけると、先に進むことが多いかと思う。今後の課題としてよろしくお願ひしたい。

(百田委員)

皆さまには2年間大変お世話になり、ありがとうございました。Zoomは移動の時間もなく便利だと思う気持ちが半分と、皆さんにたった一言でもご挨拶する機会がとれないということもいつも考えている。

放課後児童クラブは平成31年から委託化されたが、所管課には現場を尊重した事業管理をしていただいている。もう夏休みに入っており、子どもたちは長時間労働に匹敵するような生活をしている。実は1学期に事故が多く、どんなに忙しくても怪我対策の研修をしようと、Zoomでの研修にたくさんの職員が参加した。遊具の使い方や、ドアに指を挟むことを経験上知らないなど、小学生が体験していると思い込んだことが原因の怪我が多かった。

たくさんの施策があることはいいことだが、子どもたちの失敗する権利、挫折する権利、そして失敗や挫折から立ち直る経験、そこにSOSを言う力、あるいはSOSを言えないでいる子どもを見ている大人がいるということに気づくチャンス、これらを奪うことにならないように気をつけなければならないと、いつも思っている。本当に子ども自身のことを思うのであれば、親が助かることよりも、視点の中心は子どもであり、特に10歳ぐらいまでの間にどれだけ失敗できるかだと常に思っている。

第3期計画では、アンケートの継続性を担保しながら、今の社会を把握するための努力や工夫をしていることに敬意を表するが、ぜひ小学5年生だけでなく、小学1年生もしくは小学2年生が大きな変わり目なので、ここにアンケート以外の方法で意見聴取することも考えていただけたらと思っている。

(松本委員)

欠席しがちで申し訳ない。いつも資料等で計画を拝見し、まとまっていて素晴らしいと思っていた。松戸市医師会としては、松戸市夜間小児急病センターで子育てに少しは役に立っているかと思っている。コロナ禍では患者が減っていたが、最近またすごく増えてきていて、皆さまのお役に立っているのかなと思う。

アンケートについてだが、少子化についてのアンケート調査は、保護者に聞くよりも、これからお子さんを持つであろう方々に聞かないと少子化の解消にはならないのではないかと思う。

(山田委員)

2年間、皆さまとこの会議に参加させていただき、大変勉強させていただいた。ありがとうございました。私には小中学生の子どもがおり、仕事と両立しながら、何とか子育てをしている。

中学校では、子ども主体となって色々なことを決めていくということを学校全体でやっている雰囲気を感じている。今回「こども基本法」もあり、そういった流れがこれからどんどん出てくるのだろうなということを感じているが、親としては戸惑いつつ、こうなることが自然であり変換期だと感じている。

そうした中で、まだまだ勉強する場所がない、遊びに行くこともなかなかできない、ボール投げとかもできないという話を、子どもたちから聞くことも多い。私が自分の活動の中で、子どもを真ん中にして子育てをどうやっていくかと考えたときに、もっと親たちも心の余裕を持って子どもたちに接していける環境をつくるのがとても大事だと思う。今回子ども・子育て会議に出させていただき、親の就労が子どもの生活に影響があることをとても感じた。男女共同参画課では母親の就労支援の相談にのっていたり、ハローワークでもコーナーがあったりで、そうした課も子ども・子育て会議に参加することができたら、現場の意見や親の思い、子どもたちの様子も聞けるかと思った。

実は私もキッチンカーで移動する、民間の「駄菓子屋カフェ」というものをやっている。子どもたちが夏休みで、暑い中70人以上の親子が来てくれた。この炎天下の危険な中、子どもたちを何とか楽しませようとする親御さんの気持ちや、子どもたちの笑顔を守ってあげたいという気持ちがしている。この会議がもっともっと充実して、施策に反映していけるような会議になることを祈って、私からのお話とさせていただきたい。

(阿部副会長)

皆さま、大変ご苦勞様でした。2年間、大変多岐にわたる様々な事業が取り上げられた。「一人も取り残さない」がスローガンかと思うぐらい、松戸市に住む様々な子どもたちに対する支援を、様々な角度から、皆様のご意見をいただきながら進めていくという作業であった。おそらく、そこが全国的にも高い評価を受けているのだろうと思っている。しかし、取り残されている問題がいくつかあるとご指摘をいただいた。例えば、中高生の放

課後の対策問題は、これからの全国的な課題でもあるかと思う。青年期に入っていき子どもたちにとって、この時期をどう過ごしていくかということを考えて支援を充実させることは、これからの松戸市にとっても大事な課題である。

「こどもまんなか」、これは非常にいい言葉だと思う。子どもを大事にするという意味だけでなく、子どもによい環境を与えるという意味もあると思う。子ども一人ひとりが力を発揮し、いい環境をつくっていく担い手になっていくための経験や学びをすることを大事にしていきたいと思う。与えられるだけでなく、子どもが自分の成長に活かしていくためには、子どもも担い手になる必要がある。

例えば、給食は心と身体の栄養として非常に大事であり、次年度は給食費の支援が始まるが、どう子どもに活かしていくのか。給食は満足度が高く子どもは喜んでくれる。これは心の成長の基盤で、大事な給食のポイントだが、与えられるだけである。その給食を自分たちでもどれか作っていく、子どもたちが出してくれるアイデアを取り入れる等、子どもが作り手・担い手になる視点を忘れると少し残念な気がする。子どもに将来松戸市に残ってほしいというご意見があったが、子どもが関わり続けないとなかなかそういう意識が育たないと思う。

子どもを真ん中にする意味は、子どもも担い手になるということであり、子どもに機会を与えていただくとさらにいいと思うので期待申し上げたい。

まとめると、残している問題を指摘されたので、忘れずに次に活かしていきたい。また、子どもを真ん中にするというスローガンのもとで、子どもも担い手になるような計画の実現をぜひお願いしたいと思っている。

(坂野会長)

すばらしいまとめをしていただきありがとうございます。本日、そして2年間、委員の皆さま、慎重審議、ご協力いただきありがとうございました。皆さまに支えられて、無事に第5期の会長職を務めさせていただくことができた。部長をはじめ、松戸市の担当課の方々、事務局として会議を支えていただき心から御礼申し上げます。

7 閉会

(事務局)

本日の議題について、その他意見や要望等あれば、意見票又は任意の様式に記入の上、7月28日(金)までに、FAX、メール、郵便等にて事務局まで送付願いたい。

なお、次回の会議については11月頃の開催を予定している。